

猛勉強の半年間、夢へ一步



インターンシップでの経験を指導教員らに報告する福原さん(右)と横山さん=宇都宮大

宇都宮大国際学部4年福原玲於(福原さん)が、同大初となる国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) 駐日事務所での約半年間のインターンシップ(就業体験)を終え、「紛争の被害者支援という将来の目標が明確になった」と活動を振り返った。同横山友輝さん(21)も紛争問題の解決に取り組む国内NPO法人での就業体験を今月上旬に終了した。コロナ禍で海外渡航が困難な状況でも、若い力が世界を舞台に活躍している。

(佐野恵)

国連機関でインターン

「紛争被害者の力に」 宇大・福原さん

同じゼミも NPOで貴重な経験

大田原市出身の福原さんは小学校でナイジェリア出身の外国語指導助手(ALT)と交流を深め、世界に関心を持った。同大進学後は国際法が専門の藤井広重助教(37)のゼミに所属。昨夏、オランダでのゼミ合宿でハーグの国際刑事裁判所(ICC)などを見学し、憧れを強くした。

藤井助教によると、難民の保護と支援を担うUNHCR駐日事務所での就業体験は「専門知識が求められ超難関」という。福原さんは授業に加え、独学で語学力を磨いた。英語での履歴書作成や面接などを経て、2月に合格を勝ち取った。難民関係の過去の判例を猛勉強しながら、難民認定を求める保護申請者の対応も経験。「将来は国際的な刑事裁判所で働きたい」と目を輝かせる。同事務所の担当者は「何事にも熱心で職員の一に素早く対応し、明るく確実に業務をこなしてくれた」と仕事を高く評価した。

藤井ゼミ所属の横山さんは、2月〜今月上旬まで都内の日本紛争予防センター(現・REALS)で経験を積んだ。南スーダンの職員らとオンラインでやりとりしながら、民族融和や平和的共存の促進などに奮闘した。

横山さんは、国連平和維持活動(PKO)など、紛争が起きている現場で被害者に寄り添う仕事が将来の目標であり、「先生や大学のサポートを糧に、実現へ向けて努力し続けたい」と述べた。

一方で就業体験はコロナ禍でテレワークを強いられるなど制約も多かったが、藤井助教は「海外へ行けな

くても国際経験は積める」と強調。2人はともに同大大学院に進学する。藤井助教は「学び続け、平和構築に貢献してほしい」と期待している。

光陽エンジニアへ紺綬褒章の伝達式
宇大 大学生支援で功績
「宇都宮大学3C基金」
に多額の寄付をしたとして、電気設備工事などを手が

掛ける光陽エンジニアリング(宇都宮市玉木町2丁目)が紺綬褒章を受け、26日に同大峰キャンパスで伝達式が行われた。

同基金は大学の財政基盤強化のため、2017年に「宇都宮大学基金」を発展・拡充して創設された。光陽エンジニアリングの受章は5月30日付。同大のSDGs(持続可能な開発目標)の推進を目指して19年7月に1千万円を寄付し、その功績が認められた。同社の紺綬褒章受章は18年に続き2回目。これまで



紺綬褒章を受章した光陽エンジニアリングの飯村会長(左)と石田学長(26日午後、宇都宮大)

に計約1億5千万円を同大へ寄付しており、給付型の「飯村チャレンジ奨学金」の創設など学生支援の強化につなげた。同大を訪れた飯村会長は「地域の知の拠点としての力を発揮し、さらに栃木を引っ張ってほしい」と強調。石田学長は「学生が元気になる数々の支援を頂き、心より感謝している。SDGsなどを力強く進めたい」と述べた。

下野新聞
2020年8月27日(木)
朝刊3面